

指導のポイント ⑤

◎5 合目（動詞文Ⅱ）

各課の構成と使い方（共通）・・・ 本冊「テキストガイド」をご覧ください。

Ⅰ 課 道を たずねましょう

<この課のねらい・CanDo>

- ・困った時に人にお願いができる。
- ・人の指示を聞いて動ける。

<先生方へ>

「消しゴムを貸してください」「漢字を教えてください」など、困った時に、先生や友達に丁寧に依頼（お願い）する表現と、「立ってください」「そこを曲がってください」など、人に丁寧に指示をする表現を学びます。日常生活でよく耳にする表現 ですが、「貸します→貸して」「立ちます→立って」のように、日本語学習者にとっては、動詞の変化が難しく（日本語教育では「て形」と言います）、子どもによっては習得に時間がかかるかもしれません。正しい形で話せるようしっかり練習しましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～を [動詞]て ください」（指示、依頼の表現）
- ② 動詞の「て形」
- ③ 道案内の語彙・表現

<ポイント>

- ① ・「～てください」には、厳密には依頼と指示の二つの意味がある。意味の違いにふれる場合は、例のように場面設定を丁寧にすると違いがわかりやすい。前置き表現についても触れるとよい。
例) 掃除の時間です。窓を開けてください。→指示
すみません(あのう)、暑いですから、窓を開けてください。→依頼
・ 「～てください」は丁寧な表現。友達同士など親しい相手との会話では「ください」を省略してもよい。
・ 通信機器の普及で、人に道を尋ねる機会はあまりないと思われるが、もしもの場合を想定して教えておきたい。その際は、全く知らない人ではなくお店など安全な場所で聞くことも教えたい。
- ② ・5合目から「動詞」のさまざまな活用が登場する。詳細は、「6 課 ことばのグループ分けと変化」をご覧ください。
・ 必要に応じて「て形」の導入、定着をはかる。年齢や子どもの学習スタイルなど、支援する子どもの様子を見ながら、て形の活用を教える。2G(グループ)→3G→1G の順で教えると理解しやすい。
・ 1グループ…五段活用(書かない、書きます、書く、書くとき、書けば、書け)
2グループ…上二段活用(見ない、見ます、見る、見るとき、見れば、見ろ)
下二段活用(食べない、食べます、食べる、食べるとき、食べれば、食べろ)
3グループ…カ行変格活用(来ない、来ます、来る、来るとき、来れば、来い)

サ行変格活用(しない、します、する、するとき、すれば、しろ)

- ・ 低学年児童は、自然に活用できるようになっていることも多いが、間違ったまま覚えていることもあるので子どもの発話には耳を傾けたい。
- ③ 「Ｔ字路」「つきあたり」といった地図を見たり、道を説明するときに使う言葉は意外と知らないことが多いので、しっかり確認したい。

2 課 きまりを 守りましょう

<この課のねらい・CanDo>

- ・授業やテストを受ける際に、ルール(きまり)を理解して行動できる。
- ・してもいいこと、してはいけないことを尋ねることができる。
- ・許可を求めることができる。

<先生方へ>

日本の生活や授業内のルールは、万国共通ではありません。この課で学ぶ表現を使うことで、先生は子どもにルールについて丁寧に説明することができます。子どもはいいか悪いか判断に迷った時に、質問することができます。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～を [動詞]ては いけません。」(禁止の表現)
- ② 「～[動詞]ても いいです。」(許可)
- ③ 「～[動詞]ても いいですか。」(許可求め)
- ④ 「～の前(後)に～。」(時間的な前後関係)
- ⑤ 「まず～。それから～。」(時系列の説明)

<ポイント>

- ①②③ いずれも、て形から接続する。

- ① 禁止の表現。学校のルールなどで導入すると分かりやすい。

導入例) T: 廊下を走ります。ダメです。→ 廊下を走ってはいけません。

- ② 許可を伝える表現。

導入例) T: 給食のおかわりをします。いいです。→ おかわりをしてもいいです。

- ③ 許可を求めるための表現。

導入例) T: 授業中です。トイレへ行きたいです。何と言いますか?

C: トイレ、いいですか。

T: トイレへ行ってもいいですか。

- ・ 「～てもいいですか」に対する返答の仕方は、以下のようなバリエーションが考えられる。

肯定…「はい、いいです(よ)」 「どうぞ」

*「～てもいいです」は、目上の人に対して使うと失礼。

否定… ①規則等に関すること…「いいえ、いけません」「いいえ、だめです」「いいえ、～てはいけません」

例) T: ここで、写真を撮ってもいいですか。

C: いいえ、いけません/ だめです / 撮ってはいけません。

②個人的なことに关すること…「ごめんね(すみません)、ちょっと…」

T: このおもちゃを使ってもいいですか。

C: すみません、ちょっと…。今、使っていますから。→ 導入や練習の時の場面設定を丁寧に。

- ④・「～の前・後」は母語によっては日本語と語順が違い、意外と混乱しやすい。子どものわかる場面を設定し、丁寧に確認する。

- ・ ここでは「名詞+の 前・後に～」の文型を学習する。

例) 給食の前[□]に手を洗います。→給食を食べます。→ 給食の後[□]に掃除をします。

「[動詞]前に/後に～」(例・食べる前に~/ 食べた後に～)は、動詞の活用(辞書形、た形)が未習のため、扱わない。(＊ 5 合目 6 課を学習したら可。)

⑤ 「まず～。それから～。次に～～。」時系列に物事を述べるために必須の副詞と接続詞。作文指導で、積極的に使いたい。

3 課 音楽会

<この課のねらい・CanDo>

・今していることを表現できる。

<先生方へ>

「～ています」の形は、様々な用法があります。この課では、「本を読んでいます」や「掃除しています」などの進行形を扱います。「知っています」や「ぼうしをかぶっています」など、動作の結果・状態を表す用法は 5 合目 5 課で扱います。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～[動詞]ています。」(動作の進行)
- ② 「ピアノを弾きます。」(よく使われる語の組み合わせ)

<ポイント>

- ① ・「今」がはっきりわかる例文を提示する。扱う動詞をよく吟味する。
 - ・ 「進行中」ということがわかるように、実際に動いて見せる。
導入例) T: (実際に歩きながら) 私は今、歩いています。
 - ・ 「～ています」の用法について、指導者がしっかり理解しておく。
例) 「ごはんを食べています」「ゴミが落ちています」の用法の違い
→ 動詞の形はどちらも「～ています」だが、性質が違う。
 - A) 食べます… これから食べます。→ 今、食べています。(動作の進行) → 食べました。
 - B) 落ちます… ごみが落ちます。→ あっ! 今、落ちました。→ ごみが落ちています。(動作の結果・状態)
 - C) 知ります… 私は難しい言葉を知っています。(状態)
 - A)の仲間の動詞… 飲みます、泳ぎます、書きます、勉強します、など
 - B)の仲間の動詞… 開きます、止まります、着ます、など
 - C)の仲間の言葉… 住みます、持ちます、など
 - B)C) については第 5 課で扱う。
- ② 楽器名と動詞の組み合わせを確認する。
例) ピアノ、ギター… 弾きます / 鍵盤ハーモニカ、リコーダー… 吹きます / 太鼓、木琴… 叩きます

4 課 放かごの すごし方

<この課のねらい・CanDo> ・自分の行動や作業の手順を、順序立てて、かつ文をつなげて伝えることができる。
<先生方へ> 「～て、～て、～て…」は文と文をつなげる（順接）便利な表現ですが、作文の時に多用して一文が長くなり過ぎないように気を付けましょう。
<主な指導文型・語彙・表現> ① 「～[動詞]て、～[動詞]て、～[動詞]ます。」（時系列に物事を述べる） ② 細部名称や手順の言葉
<ポイント> ①・ 順番に行った二つ以上の動作をて形でつなぐ表現を学習する。 ・ 長くても三つ以上の動作を並べないように注意する。話し言葉のまま文にすると「～て、～て、～て…」と永遠に続いてしまう。話し言葉と書き言葉の違いを意識する。 ② この課に限らないが「なかまのことば」で細部名称を扱っている。第二言語では、こうした言葉は意識して学習しないと定着するのが難しい。また、作業の手順の動作の言葉は体験とともに覚えることで身に付きやすいが、逆に言えば体験が乏しいと知らない。動作を確認しながら言葉を覚えさせたい。

5 課 これを 知っていますか

<この課のねらい・CanDo>

・服装、持ち物など、身近なことについて話ができる。

<先生方へ>

「～ています」が表すのは、現在進行形だけではなく、動作の結果・状態（例①）や状態（例②）、また繰り返し・習慣（例③）などを表すこともあります。

例① 「これから服を着ます」→「服を着ました」→「今、服を着ています」… 動作の結果・状態

例② 私はカイロを知っています。… 状態

例③ 私は毎日、カイロを使っています。… 繰り返し・習慣

動詞や文脈によって「～ています」の意味・用法が異なります。導入の際には扱う動詞を精査しましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

① 「ジャンパーを着ています。」（動作の結果・状態）

② 「私はカイロを知っています。」（状態）

③ 「私は毎日、使っています。」（繰り返し・習慣）

<ポイント>

①②③「～ている」にはたくさんの用法がある。『やまのぼり』では日常的によく使われ、かつ用法が理解しやすい動作の進行の意味（3 課）と動作の結果・状態（5 課）の二つを主に扱うが、繰り返し・習慣（5 課）の用法も本文には出てくる。意味・用法については、指導者はあらかじめ調べておきたい。

・ 「動作の進行」と「動作の結果・状態」の見分け方

例）動作の進行… これから食べます。→ 今、食べています。→ 食べました。

動作の結果・状態… これから座ります。→ 座りました。→ 今、座っています。

② 「知っていますか」の返答 → 肯定…「はい、知っています。」「知ってる。」

否定…「知りません。」「知らない。」

*「知っていません」にはならないので注意する。

6 課 ことばの グループ分けと へん化

<先生方へ>

- ①動詞の活用を覚えるためには、その準備として3つのグループ分けを知っておくと便利です(特に高学年以上)。国文法の五段活用は1グループ、上二段・下二段活用は2グループ、カ行変格活用・サ行変格活用は3グループです。動詞は、「のみます→のんで、のんだ、のまない、のむ、のめば」(1グループ)、「たべます→たべて、たべた、たべない、たべる、たべれば」(2グループ)のように、文の中で担う機能によって変化します。
- ②日本語の動詞は活用し、その活用の仕方にはルールがあります。低年齢の子どもは、自然に覚えて言えるようになることが多いです。しかし、ある程度構造的に言語を捉えられる年齢になった子どもは、このようなルールを覚えた方が学びやすい場合もあります。日本の国語教育で学ぶ国文法とはアプローチが異なりますが、日本語学習者はこのようにして活用を学びます。
- ③日本語教育では「です・ます」を「丁寧形」、「食べる、寒い」など言い切りの形で終わる形を「普通形」といいます。丁寧形で終わる文を「丁寧体」と呼び、普通形で終わる文を「普通体」といいます。
「食べますことができる」ではなく「食べることができる」、「本を読んでいます人」ではなく「本を読んでいる人」と使えるようになるためには、こうした形の違いを学ばなければなりません。そのために形を整理する必要があります。

<ポイント>

- ・ 私たちが無意識にしている動詞の変化だが、外国語として日本語を捉えた時、意識的な学習が必要。英語の動詞の不規則動詞を覚えた時のことを思い出してほしい。
- ・ 低年齢の子どもはあまり意識せず、自然に身に付くことが多い。ある程度覚えたら、実際の会話の中で使いながら習得していくことが望ましい。

7 課 文の形を くらべよう

<この課のねらい・CanDo>

- ・ 文体の違いがわかり、適切に使うことができる。

<先生方へ>

この課では、さまざまな読み物を通して、文体の違いを体感させてみてください。5合目6課に“活用形”の表がありますのでご活用ください。

<ポイント>

- ・ この課では、動詞の「た形」「ない形」「辞書形」が出てくる。6課に戻り、それぞれの変化の仕方を説明し、練習する。6課では、「丁寧形」「普通形」も扱っているので、必要に応じて活用する。
- ・ 教科学習のまとめや要約の練習になる。「ヒマワリのかんさつ」と「災害の話」は、長い文章の要約例が下段、次ページに表としてある。
- ・ 理科の観察ノートや日記など、色々な文章を書く練習をするとよい。

8課 お兄さんは どの人？

<この課のねらい・CanDo>

- ・人や物について、より詳しく説明できる。

<先生方へ>

連体修飾文、いわゆる複文は、節の中に主述や修飾被修飾の関係が入るなど、複雑な文構造となっています。英語の関係代名詞、分詞を勉強した時のことを思い出してみてください。どの言葉がどこにかかってくるか理解するのに苦労した経験があるという方も多いでしょう。文の構造が理解できないと、文の意味を正確に捉えることができず、文章全体を理解することも困難になります。

連体修飾文の理解運用は、教科学習の理解に大きく関わります。文の作りに着目し、意識的に学習することが必要です。

＜主な指導文型・語彙・表現＞

- ① 「～で～をしている **人**」「～した **もの**」(連体修飾)
② 「～さんは、**～をしている人**です。」(連体修飾の文)

<ポイント>

- ① い形容詞の連体修飾(4 合目 2 課)と対比させると、文の構造が分かりやすい。

例) かわいい人 せが高い人

ボールをもっている人 どちらも下線部が□の名詞を修飾している

(「普通形(6課参照)+名詞」という接続)

- ・ 修飾語と被修飾語の語順は母語によって日本語と異なるので、混乱しやすく慣れるまでに時間がかかる。
例えば、英語の関係代名詞は修飾語が被修飾語の後ろにくるなど構造が異なる。日本語は必ず、被修飾語の前に修飾語がくる。
- ② ・本文は連体修飾が述語部分にあたるものがほとんどだが、「いいましょう」1-2や2-3は主語部分、また、2-4は目的語部分が連体修飾部になっている。子どもが混乱するような時は、それぞれ個別に練習する。
- ・ 「よみましょう2」では、文章を読みながら統計グラフも読み解く練習もする。

もういっぽ⑭ 読んでイメージしましょう

<もういっぽ^⑭のねらい・CanDo>

連体修飾文を含む文章を読んで、状況を正しく理解できる。

<先生方へ>

＜日本の地形＞は、高学年向けの読み物です。子どもと一緒に地図帳（様々な地形・模式図等）を見ながら読んでみてください。

<ポイント>

- ・ 8課で学習した連体修飾に慣れるためのページである。平易な文章の「クマとキツネとカメラマン」を読みながら実際にその場面を絵にすることで理解を確認することができる。
- ・ 高学年以上向けの「日本の地形」はごく基本的な文型「～は～です。」で構成されている。既習の文型でも知らない語彙が使われていたり、連体修飾のような複雑な構造になっていると学習理解は難しい。慣れてきたら実際に教科書を読むなどして学習理解につなげたい。

9課 わたしの 家族

<この課のねらい・CanDo>

・できること、できないことについて説明できる。

<先生方へ>

この課では、「可能表現」を学習します。可能表現の形には「動詞の辞書形+ことができる(例・食べることができる)」と「可能形(例・食べられる)」がありますが、意味・用法はほぼ同じです。また、可能の意味は、「能力」と「状況」の大きく二つに分けられます。本文では、「日本語と中国語が話せる」は「能力」、「おいしい料理が食べられる」は「状況」です。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ①「～は、[名詞]が できます」(名詞の可能表現)
- ②「～は、[動詞]ことが できます」(動詞の可能表現)
- ③「～は、[動詞の可能形]ます。」(可能形)

<ポイント>

①②③「～ができる(可能)」は概念を理解しやすい表現なので、「動詞の辞書形+ことができる」と「可能形」の二つを同じ課で扱っている。混乱を防ぐために、まずは一方の言い方・形の作り方をしっかり理解してから、もう一方を教える。

- ①「名詞+できます」の形。

例) ダンスができます。(=ダンスをすることができます。) 水泳ができます。(=泳ぐことができます。)

- ②③「動詞の辞書形+ことができる」の前の助詞は「を」だが、可能形の場合は「が」になる。

例) 納豆^を食べることができる。 納豆^が食べられる。

ただし、「を」「が」のどちらもとれる場合もある。

例) 英語^を話せる。英語^が話せる。

- ③ 可能形が作れるのは意志動詞のみ。無意志動詞は可能形にならない。

意志動詞…主語の意志を表す動詞(行く、食べる、飲む、など)。意向形「～よう」にできる。

無意志動詞…主語の意志を表すことができない動詞(ある、わかる、困る、降るなど)。

- ・「見える」「聞こえる」は可能の意味も持つが「見られる」「聞ける」とは意味が違う。「見える」「聞こえる」は意図せずに自然に目に入ったり耳にしたりすることを表す。

10課 水の へん化

<この課のねらい・CanDo>

・「A をすると、B」という恒常的に物事が成り立つ関係（自然現象、習慣など）がわかり、理科の実験など教科学習に参加できる。

<先生方へ>

前件を条件として後件が起こるという関係の複文を「条件文」と言います。この課では「～と、～。」を扱います。この課以降に出てくる「～たら、～。」「～なら、～。」「～ば、～。」はいずれも条件文ですが、それぞれ意味・用法が共通する部分とそうでない部分があり、日本語を学ぶ上で混乱しやすい項目です。指導者はその違いを事前に知っておくことが大切です。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～を [動詞]と、～。」（条件）
- ② 「～く(に)なります。」（変化）
- ③ 理科の学習用語

<ポイント>

- ① 条件節を作る「と」の前後で、状態が変化する。具体的に変化がわかる場面設定で導入したい。

導入例) T: 冷たい水をやかんに入れて、火にかけます。どうなりますか。

C: あったかい!

T: そうですね、温かくなりますね。 水を火にかけると、温かくなります。

- ・ 条件節の形は「辞書形/ない形+と」。

例) 水を冷すと、氷になる。 氷を冷凍庫に入れないと、溶ける。

- ・ 後文(主節)の部分では意志を表す表現は使えない。

- ・ 例) 春になると、お花見をしよう。→ ×

- ・ 条件節を作る「と」「たら」「ば」「なら」は、意味用法が多岐にわたる。文法書などに目を通したい。

- ② ・物事の自然な変化を表す表現「～くなる/ ～になる」。

い形容詞… 大きい→大きくなる

名詞、な形容詞… こおり → こおりになる、 しずかな→ しずかになる

動詞… できる → できるようになる

- ③ 同じ現象を低学年向けと高学年以上向けに分けてある。年齢に合わせて活用する。

もういっば⑮ 自分の意見を言いましょう

<もういっば⑮のねらい・CanDo>

条件文に限らず、これまで学んだ多様な表現を使って自分の意見が言えるようになる。

<先生方へ>

「なら」は、「と、ば、たら」と比べて使用場面が限られているため、使う頻度は少ないかもしれませんが、上記の会話文や、いいましょうを通して、自分の意見や希望を話す練習をしましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

① 「～なら、～です。」(条件)

<ポイント>

- ・ 条件節を作る「なら」。ここでは「名詞/動詞の普通形+なら」を扱う。
例) 木曜日なら、遊んでもいい。/ 宿題をするなら、ゲームをしてもいい。
- ・ 「なら」の文法的な意味や用法は多様であるが、ここでは、聞いて(読んで)理解できることを目的としたい。
日常よく使われる場面として、「相手の発言を受けて自分の考えを述べる」時を設定した。

11課 大人になったら

<この課のねらい・CanDo>

・自分のしたいことや将来の夢のために具体的な目標を立てることができる。

<先生方へ>

なりたい自分を思い描き、その自分に近づくためにはどうすればよいのかを考えるきっかけを作しましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「(もし)～たら、～[動詞]たいです。」(条件)
- ② 「[動詞]てみます。」(試み)

<ポイント>

- ①・条件節を作る「たら」「と」「ば」「たら」「なら」の中で、子どもたちが早いうちから使えるようになるのがこの「たら」。話し言葉でよく耳にするため、意味理解もしやすい。
導入例) T: 10年後、大人になります。何がしたいですか。
C: 世界旅行がしたいです。
T: いいですね。〇〇さんは「大人になったら、世界旅行がしたいです。」
 - ・ 形は「た形+ら」 例) 大人になったら、先生になりたい。
 - ・ 将来の夢については3 回目9課でも扱っている。そこでは、「～を～ます」といった動詞を使って具体的に希望する職種が何をするか述べたのに対し、ここでは仕事に就いた際にはどうしたいか、自分の希望や意見が言えること、表現を広げることを目標としている。
 - ・ 「はなしましょう」のトピックは、「もしもの話」で、自由に会話を広げることができる。
 - ・ 「よみましょう」は、学校の生活場面で起こり得る友達との行き違いをストーリーにした。「もし私が〇〇さんだったら、…」と相手の立場に立って考え、言葉にする練習をしたい。
- ②・ 試しに何かする、何かをやってそれができるかどうか探る、というときに使う表現。
形は「動詞て形 +みる」
 - ・ 「～てみる」の表現は「～てみたい」「～てみてください」「～てみたらどうですか」「～てみよう」など色々な形に変化する。

もういっば⑩「ことわざ」って何？

<もういっば⑩のねらい・CanDo> 言葉にまつわる文化の違いを楽しむ。
<先生方へ> 日本のことわざに親しんだり自分の国のことわざに興味を持つことで、知識を広げ、言葉を豊かにしましょう。 ことわざを題材に、「～すれば」（条件）の表現を学習しましょう。
<主な指導文型・語彙・表現> ① 「～ば、～です。」（条件）
<ポイント> <ul style="list-style-type: none">・ 条件節を作る「ば」・ 動詞の「ば形」の作り方は、web 版本節参照。・ い形容詞「いい」のば形は「よければ」、「ない」のば形は「なければ」。・ 読み物としても活用したい。大筋を捉える読み方をしたり、知らない語彙を辞書で調べるなど、目的に応じて学習課題を設定する。・ 母国のことわざを調べることで、親子が母語で会話をする機会としたい。

12課 自然さいがい

<この課のねらい・CanDo>

・自分や他人の行動や、目の前の事象を言葉で正しく伝えることができる。

<先生方へ>

目的語を伴わない動詞を自動詞といいます。この課では人の働きかけによらない自然発生的な行為を表す自動詞を中心に集めました。対になる他動詞(目的語を伴う動詞)がある場合は、一緒に覚えましょう。

日本語を自然習得する場合なら自動詞か他動詞かは無意識に使い分けることができますが、そうでない場合は、その使い分けが大変難しいです。

例) 火が消える。(自動詞) / 火を消す。(他動詞)

この課で挙げているのはほんの一例です。言語によっては、自他動詞で形の区別がないものもあります。すぐに身に付くものではないので、折に触れて確認しましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

「木が倒れます。/ 木を倒します。」(自動詞/ 他動詞)

<ポイント>

- ・ 自他動詞が対になっている言葉は子どもたちが混乱しやすい。理科や社会などの学習用語でよく耳にするものも多い。すぐ身に付くものではないが、一度整理をしておきたい。
- ・ 自動詞は意志を表さず、「～が+自動詞」…木^が倒れます。
- ・ 他動詞は意志を表し、「目的語+を+他動詞」…木^を倒します。
- ・ 本文では、「～が+自動詞+ています」(結果の状態)の表現も出てくる。…木^が倒れています。
- ・ 本文では、「道路が壊れています」という例文が出てくるが、高学年以上の場合「倒壊する」「陥没する」といった語彙を教えてもいい。

もういっば⑰ 気持ちよく勉強するために

<もういっば⑰のねらい・CanDo>

・物事の状態や様子、準備のための行為について表現することができる。

<先生方へ>

①②③はいずれも、私たちは無意識に多用しているものの、日本語を学ぶ子どもたちには、差異が理解しにくい表現です。絵を見て、本文に書かれていることのほかに、何か気付くことがないか子どもと話しましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～が [動詞(自動詞)] ています。」(状態・状況の描写をしている。)
- ② 「～を [動詞(他動詞)] ています。」(状態・状況の描写をしている。)
- ③ 「～を [動詞(他動詞)] ておきます。」(準備のための行為を述べている。)

<ポイント>

- ① 教室内の描写の文章で、5合目5課で扱った“結果の存続”をあらわす「～ています」である。ここで使える動詞は、「落ちます」のように自動詞のみ。
- ② 「～ています」も状態・状況の描写ではあるが、文意に人の意図が含まれる。
- ③ ・ 「～ておきます」は準備として何らかの行為を示している。
 - ・ 話し言葉では「～とく」になる。例) ジュースを用意しておく→ 用意しとく
- ①②③ 絵を見て、本文に書かれていることのほかに、何か気付くことがないか子どもと話し、それを文に書いてみるのもよい。定着が難しい自動詞・他動詞の練習になる。

第13課 おにごっこ

<この課のねらい・CanDo>

・他人から受けた行為や、困った体験を話すことができる。

<先生方へ>

受身形は、何かされている人、困っている人、迷惑に思っている人、など動作の対象が主語になります。

また、日本語の受け身文は基本的には、迷惑な行為を表しますが、主語が無生物になると迷惑の意味がなくなります(「普通選挙制度が定められる」「豆腐は大豆から作られる」など)。社会や理科でよく見られる表現です。

<主な指導文型・語彙・表現>

① 「～は、～に [動詞] (ら) れます。」 (直接受身)

② 「～は、～に ～を [動詞] (ら) れます。」 (間接受身)

<ポイント>

①② ・行為を受けた方に視点を移し、被行為者の側から物事を述べるのが受身文。受身は、誰が誰に何をされたのか、特に友人間のトラブルにおける説明に欠かせない文型なので、さまざまな場面を想定して練習したい。

導入例) T: (先生が子どもを叱る絵を見せて) 先生は A さんを叱りました。A さんは・・・

C: A さんは、先生、叱りました?

T: A さんは、先生 に 叱られました。

・ 受身形の作り方は、本冊参照

① ・動作を行う人・ものは「に」で表される。

例) A さんは、B さん に タッチされました。

・ 社会や理科などの説明文では、“行為者のない受身文(主語が無生物)”が多用される。原材料などを表す場合は、「から」「で」「～によって」等で表される。助詞が省略される場合もある。

例) 豆腐は、大豆 から 作られます。 / 鳥居は、木 で 作られています。

法隆寺は、751 年に 建て られました。

② ・迷惑受身と言われているのがこの形。トラブル等で迷惑・被害を被ったという意味合いを含む。主語は、迷惑を被る話し手であることが多い。

例) 私は、A さん に 足 を 踏まれました。 / 私は、誰か に スマホ を 取られました。

もういっば⑱ 高学年向け読み物「サバンナの動物」と「地図記号」

<もういっば⑱のねらい・CanDo>

受身形を含む文章を読んで、説明文が理解できる。

<先生方へ>

<サバンナの動物>と<地図記号>は、いずれも高学年向けの読み物です。子どもと一緒に動物の世界を想像したり、地図記号の成り立ちを考えたりしながら読んでみてください。

<ポイント>

- ・ 13課で学習した受身形に慣れるためのページである。
- ・ <サバンナの動物>では、どの動物がどうしたか、どうされたか、視点をそれぞれに変えながら、弱肉強食の世界の臨場感を味わってほしい。
- ・ <地図記号>は 13 課の指導のポイント(先生方へ)でも触れているが、主語が無生物で、行為者のない受身文。文の形は受け身だが、意味は「書く、作る、建てる、発明する」といった、なにかを創造することを表している。

例) この小説は、英語で書かれている。/ 電球は、19 世紀に発明された。

14課 お父さん、お母さんの 気持ち

<この課のねらい・CanDo>

・保護者の子どもに対する思いや理由の一端を知る。

<先生方へ>

使役表現は、受身表現のように動作の主体と内容がわかりにくい表現です。しかし、子どもの生活で使われることも多い表現です。「誰が」「どうした」を丁寧に確認しましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～は、～を [動詞] (さ) せます。」 (自動詞、使役)
- ② 「～は、～に ～を [動詞] (さ) せます。」 (他動詞、使役)

<ポイント>

①② 主語が人に何かをさせることを表す。この課では、命令・強制の意味の使役文を扱う。

- ・ 使役の形と助詞を正しく理解しないと、文そのものの理解が難しくなる。イラストと文をマッチングさせるなど、誰が、誰に、何をさせるのか明確にするための工夫が必要。

導入例) T: (親が子どもに勉強をさせようとしている絵を見せる) お母さんが子どもに「勉強してください」と言います。子どもの顔を見てください。うれしいですか？

C: うれしくありません。

T: そうですね。お母さんは、子どもに勉強させます。

- ・ 動詞の形の変化は本冊参照。
 - ・ 「いましょう②-1」は①の文型、「いましょう②-2」は②の文型にあたる。
 - ・ 受身文、使役文、使役受身文 (このテキストでは扱っていない) は、やや難しい項目だが、実際の学校生活で遭遇するトラブルや気持ちの説明の時に必要である。実際にトラブルが起きたときなど、子どもに聞き取りをし、指導者が正しい文でフィードバックしながら事実確認をしたい。
- 実際の場面や経験が“生きた日本語教育”である。

5 合目のふりかえり

・これまでの「ふりかえり」と形式が異なります。

・自動詞他動詞や受身表現は、助詞と意味をセットで覚えましょう。混乱しているようでしたら、その課に戻って、復習しましょう。